

KAS

風の谷

びゅう
VIEW

社会福祉法人 風の谷

相模原市田名7236-3

発行責任者 政野 光廣

042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>

e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

謹賀新年

2008 風の谷の「子」



作：石崎 将史



作：藤野 仁

【2008年 新春号】

巻頭文（新年のご挨拶）	P 2	支援センターだより	P 3
特集：一泊旅行特集	P 4・P 5	自閉症について～てつだってください～	P 6
新人紹介・ナウシカだより	P 7	後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町6 14

毎月15日発行 購読料1部 50円

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆さまには新たな気持ちでご活躍のこととお慶び申し上げます。挨拶に当たって何か明るい話題を、と新聞をこまめに読みましたが、政治、経済、社会全てに渡って「ねじれ」「原油高」「偽装、信用失墜」「格差社会」「ワーキングプア」などの言葉の氾濫とエネルギー問題や地球温暖化などと、なかなか明るい話題を探るのが困難な時代に突入した感があります。そんな中で昨年末の朝日新聞の天声人語に、こんな文を見つけました。「お隣の韓国のことわざに、往く言葉が美しければ来る言葉も美しい...とある。後ろ向きな言葉の応酬はにおいて、襟を正しつつ前を向きたい。」

日本には「売り言葉に買い言葉」の言い方がある中でとても印象に残った、心に留めおきたい文章でした。相手が必要としていること、して欲しいことを考え情報やサービスを届けることの大切さです。福祉関係に携わる者と基本の視点である、「利用者に必要なことは何なのか」、「何が出来るのか」を考えて歩むことの大切さを改めて感じた言葉でした。

さて、当法人も設立10周年を迎えております。この間に本当に多くの皆様にご理解とご支援を頂きました。なによりも地域の皆様にご支援を頂き、交流バザーの開催、念願のケアホーム（ナウシカ）の運営も可能となりました。誌面を借りて感謝を申し上げます。やまびこ工房の運営につきましても、利用者は40名を超え、利用者の一人一人が工房での生活を基に安定した生活の場を広げて来ております。また、事業指定を受けました相模原自閉症支援センターに於きましても、移動介護、行動援護等、やまびこ工房の利用者中心に支援を提供してきております。私自身の喜びの一つとして、これからへの課題はあるものの各事業を担い、支えている職員の成長にあります。利用者本位の風土を基にこの十年間に着実に伸び、利用者を支える成果として表れていることです。この十年間を経た今の状況を職員と共に自信と誇りを持ちたいと思います。よく言われるように自信と誇りは携わる人々をより一層前向きにし、どんな困難や壁をも乗り越えさせるものです。法人と致しましても相模原自閉症支援センターの短期入所事業の拡大などを含め、新たな法人事業構想の検討に着手しました。今までに培ったこの自信と誇りが次の時代を歩む大きな原動力になることを確信しております。

例年のくり返しとはなりますが、新しい十年の一步となります本年も、職員一人一人が、先を見る目と自らの弱点や強みを整理、認識し、強みを伸ばし、変化を担える人材として魅力あるサービスを提供出来るよう研鑽を積み、利用者満足度の高い法人、施設運営を目指したいと思っております。

政野 光廣



「相模原自閉症支援センター」便り

新年明けましておめでとうございます。

日頃から皆さまからの応援を頂いているおかげで、何とか新年を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。

さて、去年は障害者自立支援法の本格的な施行に伴い、自閉症支援センターの業務も大幅に拡大致しました。「移動介護」「行動援護」に加えて、「短期入所」「居宅介護」「重度包括支援」「相談支援事業」等々とたくさんの事業指定を受けました。しかし、現在はまだ全ての事業において支援を開始できていない現状であります。そんな中、新規事業として昨年4月より短期入所事業を定員2名でスタートさせました。現在はやまびこ工房利用者を対象にした試行的なもので、場所はやまびこ工房のQOL室を利用してのスタートです。そんな短期入所事業も12月で9ヶ月を終えて、多くの発見がありました。いちばんの発見といえば間違いなく、短期入所に対しての潜在的なニーズが大きかったことがわかったことです。もちろん様々な理由から利用希望をいただいているのですが、利用調整が必要なかった日はほとんどないくらいの希望を頂きました。このようなニーズにどれだけ応えることができるのか、障害のある人達の地域生活をどれだけ支えられるのか、これこそが「障害者自立支援法」そして、現場で働く私たちの課題なのでしょう。

そんな中12/19付けの「障害福祉サービスに係るQ&A(厚労省障害福祉課)」の中で「短期入所と日中活動系サービスを同一日に受けた場合、どのような併給関係になるのか。」という問いに対する答えが載っていました。今までは「短期入所サービス費と日中活動系サービス費を同時には算定できない。」「ただし、真にやむを得ない事由があると認められている場合にはこの限りではない。」とされてきました。ところが、新たに「しかし、上記のケースであっても、短期入所事業所と日中活動系サービス事業者が同一法人である場合には、両方のサービスを行ったとしても、どちらか一方のサービス費のみを請求することとする。」という三つめが追加されていました。現在まで「風の谷」では、やまびこ工房(日中活動)と相模原自閉症支援センター(短期入所)が蓄積してきた情報を活かしあい、同一法人内で連携して取り組んできました。しかしこのままでは、明らかに地域生活を支えている事業であるのに、すでに短期入所事業の場所や人件費などが確保できている事業所以外は出来なくなるのではないのでしょうか。そのことで、障害を抱える人達の地域生活を脅かすようなことのない様に、行政を含めた支援者が協力して、同じ方向にベクトルを向けていかなければならないのだと、改めて思いました。

去年は社会情勢等から福祉の人材不足が騒がれる中、幸いなことに新しい職員と出会う機会にも恵まれました。“いちばん困難さを抱えているのは誰なのか”、“誰の為の支援なのか”をもう一度考えながら、冷たい空気を体一杯吸い込んで、新たな気持ちで支援をスタートさせたいと思います。今年も変わらぬ応援宜しく願いいたします。 西村三郎



作：舟部 英利



お城と馬車と時々ごはん

～ 私が見た風景 一泊旅行特集～



浜名湖旅行の感想文

2007年11月、薬師丸和浩さんと一緒に浜松に行きました。行きはやまびこ工房でポテトチップス(カルビー)のを買って食べて、厚木は神奈川県立厚木商業高校というAさんの卒業した高校と、愛甲という信号と、大輔が神奈川県立座間養護学校高等部時代、受託評価した事の有る神奈川県総合リハビリテーションセンターと、B君、C君、D君の卒業した、神奈川県能力開発センターと、大輔が昔、相武台中学校、座間養護学校高等部時代、能(脳)波を取った事の有る、東海大学病院近くを車で通り過ぎました。

中井インターから東名高速道路に入り、富士インターで昼食を食べました。白身魚、烏賊、鮭、野菜の付け合せ、ご飯、紅茶等のミックスフライランチを食べました。

浜名湖西インターで降り、浜松ホテルで休憩しました。夕食はうなぎ料理あつみといううなぎ料理で夕食を食べて、うなぎの特上を食べました。とても美味しかったです。

浜松周辺はクリスマスの街灯が灯って、街灯もきれいでした。翌日の朝食はクリームマカロニとコーヒーとクロワッサンとエッグとウインナーとジュースとサラダを頂きました。

翌日はとく(徳)川家康が建てた浜松城を見学して、超高層のお城から浜松の市街地を一望できます。帰りは海老名のフジランドで昼食を食べました。朝食のスクランブルエッグはとてもおいしかった。

堀田大輔

皆さん、お元気ですか。10月25日～26日までの一泊旅行はとても楽しかったと思います。今回は女性だけではなく男ばかり8人で行きました。場所は山梨県甲府市の昇仙峡へやまびこ工房のワゴン車で行きました。僕はバスの中で電車の発車ベルをして駅名を言って次は何処の駅を言いました。例えば(1、小田急線 2、東海道線 3、横浜線、根岸線 4、千代田線 5、相模線 6、横須賀線)の駅を言いながら電車へ乗って駅にいるみたいでもうワクワクでした。それからほうとうでおそばを作り、それからお昼ご飯を食べて休けいを取りました。僕は馬車に乗りながら川や山がきれいに大きくて天気がまいちなので良かったり悪かったりでした。それから工房の車へ乗って僕はいっぱい歩きました。そして旅館へ着きまずはお風呂に入ってお飯を食べながらカラオケを楽しめました。そして10時には寝ました。それから翌日僕は7時に起きて朝ご飯を食べました。そして旅館を9時に出発をしました。その次はぶどう狩りに行ってぶどうを食べました。僕は富士吉田を見ながら遊覧船に乗ってテレビを見ました。そして12時にはお店に入ってお昼ご飯を食べました。それから休けいをしてその後は職員とお話をして歌やクイズを出しました。それから1:45にお茶やお菓子を食べてながら休けいを取ってその後またやまびこ工房の車へ乗ってワゴン車へやまびこ工房へ帰って来ました。僕は一泊旅行の思い出がいっぱいたくさんあったらいいと思います。これで10月の一泊旅行の旅はもうすべて終わりました。来年はまた一泊旅行が行けたら女性とデートをしてみたいと思います。僕は電車の駅名や発車ベルを言っているんな事をやってみて見たいと思います。皆さん楽しかったです。本当にお疲れ様でした。ではお元気でまた次回お逢い致しましょう。それではさようなら。ごきげん様これで終わりです。

やまびこ工房 作業部製造課(利用者)山崎敦史



自閉症について～てつだってください～

釣りはフナに始まり、フナに終わるという。釣り通の人ならば、最初のフナはアタリ（竿を引き上げるタイミング）の取りやすいマブナで、後のフナがアタリの取りづらいヘラブナなんだよと言うかもしれない。ただこの格言の良さは基礎も応用も一緒なんだというニュアンスのうちにあってフナというどこにでもいる魚の奥深さを示している。自閉症者支援において単純なんだけど奥深いものとは・・・。



先日、WTT 勉強室にて辻裕二先生の講義を聞いて「てつだってください」について改めて考えるきっかけとなった。先生はある児童のコミュニケーションサンプルを引き合いに出した。『リュックを持って「あーあーあー」とリュックを閉めることを要求するなど、発声はあるけど、発語はなく、「あーあーあー」と実物を持ってきて何とか伝えようとする児童のコミュニケーション例を示して、どういう支援が必要かをグループワークした。自分などはもっと明確に示せるカードを使えるようになったほうがいいかななんて考えていた。ただ伝えることが高度であると伝えようとする気持ち（コミュニケーションマインド）が失せてしまうそうだ。各グループいろいろな発表があったけど、先生はその児童に対して「てつだってください」カードを使えるよう指導したそうだ。

その結果は・・・？

手伝ってもらえると思うとより甘えたくなり、手伝ってと訴えることが増えた。

自分でできることが増えた。

発声せず、静かになった。

答えは なんだそう。

その理由は

- 一、困ったときには「てつだってください」カードを出せばなんとかなる。
- 二、できないことはやってもらえる。これなら安心だ！
- 三、じゃあとりあえず、やってみようか！
- 四、あれ！自分でも出来た。



この支援のポイントは安心感にある。不安はすべてにおける大敵だ。不安を与えないようにスケジュール提示をしたり、気になりそうなことを情報提供したり、本人が嫌がる情報を隠したりして冷や汗をかいている。それらはこちらからの一方的な配慮だったりする。余計なおせっかいだったりする。しかし「てつだってください」は自らの力で不安を安心に変える行為なのだ。

（薬師丸）

新人職員紹介

～風の谷にスタッフが増えました。どうぞ、よろしくお願いいたします。～



相模原市内の下九沢から通っています。家本佐和子です。10月からやまびこ工房でお世話になっております。今は、他社から依頼された製品部品の組み立ての仕事に利用者さんと一緒に取り組んでいます。

毎日、様々な発見、失敗を重ねながら、少しでも利用者さんを理解し、仲良くやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



谷光正剛です。千葉県出身です。

趣味は音楽鑑賞。ポップスもクラシックも好きです。最近はレコードに興味があり、針を探しに行ったり、イコライザー・アンプを自作したりしています。

どうぞ、よろしくお願い致します。



秋口より非常勤職員として勤めております野田敏久と申します。

約3ヶ月が経ち、ようやく慣れてきた部分もありますが、まだまだ分からないことも多く、日々勉強と発見の毎日です。そのような中でも少しでも利用者さんが落ち着いて楽しく過ごされ、一歩ずつ成長されるよう支援していきたいと思っております。

よろしくお願い致します。



勤務を始めて2ヶ月となりました。伊藤みすずです。利用者の方々一人一人の気持ちを大切に、明るく元気な先輩スタッフの皆さんのようになれるよう、日々学ばせて頂いております。利用者さんが、より過ごしやすくなるようサポート出来るようがんばっていきたくと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



初めまして。

9月より、やまびこ工房で働いております富岡孝夫と申します。

自閉症について、日々学びながら、利用者さんのサポートをしてゆきたいと考えております。よろしくお願い致します。

ナウシカ便り

ナウシカでは現在、「余暇時間の有効活用」という課題を踏まえて掃除についての取り組みを行っています。「自分の部屋は自分で掃除しよう。」との観点から始まり、利用者さんそれぞれの余暇時間を活用して少しずつですが、その人に合った形で掃除機、モップ、ワイパー等を使って掃除を行ってもらっています。もちろん、部屋の環境（家具の種類や配置、窓の位置など）その人の状態は一人一人違いますので、その人がやりやすい（と思われる）方法で行ってもらっています。

たとえば、Aさんは腰の調子があまり良くないので屈まずに済む腰に負担のかからないやり方を考え、テレビの周り、筆筒の上などの掃除をやってもらっています。

人によっては、慣れない作業でもあり、戸惑う様子もありますが、皆さんと協力してより住みやすい環境作りに力を入れていきたいと思っております。

また、インフルエンザやノロウイルスの流行る時期になりました。健康への配慮には特に力を入れていきたいと思っております。（村田）

後援会のページ

皆様、明けましておめでとうございます。ご家族の皆様とともに良い年を迎えられたことと思います。昨年は食品に関わる偽装事件が多発し、食の安全に対する信頼が揺らいだ年でした。本年は明るく楽しい話題の多い年であってほしいものです。

風の谷後援会の活動も、地域交流バザー、夕涼み会、ブルーベリージャム販売、資源回収等、家族会及び、やまびこ工房職員、そして地域の方々のご協力を得て順調に実施されております。

今後ともご支援下さるようお願い致します。

また、風の谷の運営する中心的な施設である「やまびこ工房」は平成10年7月に開所しましたので、今年で10周年となります。この間、利用者の家族、工房の職員、やまびこ会、地域の方々、行政等多くの関係者の温かい支えと理解によって、施設が運営されて来たと思います。

施設の利用者および運営者双方にとって厳しい「障害者自立支援法」ですが、法律改正に向けての動きも徐々に盛んとなって来ており、希望を抱かせる面もあります。障害を持つ利用者が、自分達の住む地域で安心して生活して行ける社会を実現するためには、利用者とその家族、また支援会員や地域の方々、そして行政との協調を含めた協働が必要となります。風の谷後援会としましてもこれらの関係する方々とのパートナーシップを形成する一助になりたいと思っております。

風の谷後援会会長 鈴木 秀美

【更新・個人】平成19年9月19日～平成20年1月7日（敬称略）

（相模原市内）

島森隆夫、古橋銀之助、松原麻子、菊間政好、野崎廣子、柳場秀雄、梅田英子

（その他地域）

渋谷建子（秦野市）、松岡清市（弘前市）、山本昭子、小山かおり、上城功、稲垣久和、済田安司（東京都）
上野悟、村井伸芽（川崎市）、上城春子（福岡県）、江澤恵（さいたま市）、蘭秀子（座間市）、辺見貴江子（仙台市）
福澤はつ子、農澤雄治、青山恵子、内藤美也子、清水洋子（横浜市）、田中ヒロ子、鶴田佳子（海老名市）
山口豊春、川野敏雄（北海道）、内田照雄、藤野喜友（厚木市）、田中正子（小郡市）

【更新・団体】

宗教法人日本キリスト教会上溝教会（相模原市）

【ご協力】

（有）伸和トラスト、新宿自治会、新宿小学校、三菱重工労働組合、他大勢のみなさま

ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345